

## フォーゲルー家を殺害した犯人 2011年6月11日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

### アシェル・イントレーター

3月11日金曜日、二人の若いイスラム教徒であるアムジャドとハキム、それぞれ18歳と19歳は、イタマルのユダヤ入植地にあるフォーゲルー家を彼らの家の中で殺害しました。今週、この二人の犯人は裁判にかけられました。

彼らは微笑み、彼らの行動に何の悔恨を見せずに裁判所に現れました。彼らは率直に彼らの犯罪を告白しました。彼らは真夜中に家に忍び込みました。アムジャドはヨアヴ(11歳)の上に飛び乗り、彼の口をふさぎ、ベッドルームに引きずり込んでナイフで刺しました。ハキムはエラッド(4歳)に静かにするよう身振りで指示し、彼の兄が殺されているのを見せないよう反対を向けさせ、床に身体を押しつけ、同じようにナイフで刺しました。

両親は赤ちゃんと一緒に別の部屋で寝ていました。犯人はその部屋に入って電灯をつけました。アムジャドは父のウディを刺しました。母のルティはハキムに抵抗しました。アムジャドがやってきて同様にルティを刺しました。しかし、ルティは続けて抵抗しました。そこでハキムは彼女のお腹をM-16ライフルで撃ちました。

彼らは赤ちゃんに気付かず、家を出ました。アムジャドが戻ってきて盗める武器などが家にはないかを見に来ました。そこで彼は赤ちゃんのハダス(3ヶ月!)に気付き、同じように彼女をナイフで刺しました。その詳細な説明はグロテスクなものでした。

ルティの兄弟ヨハイは、この殺人は彼らの家族に対するものではなく、すべてのイスラエルの家族に対するものだと述べました。犯人はフォーゲルー家と面識がなかったからです[マアリヴ誌(p 20、6-6-11)]。これらの少年らは単なる気の狂った精神病質者なのか、それとも彼らはイスラム過激派の「標準的な」産物なのでしょう。

二人の少年はとても若く、何の悔恨も見せず、率直に彼らの行為を告白することから、それは教育や育ちを指し示すものであり、精神病ではないのです。ハマスや聖戦が、彼らが育った環境に影響を及ぼし、彼らは常軌を逸したと考えられたのではなく、受容できるものと考えられたのです。なぜ彼らがフォーゲルー家を殺害したのか、彼らの答えはシンプルで自明です。すなわち、「彼らがユダヤ人だから殺した。」

## 神の御心が明らかにされる

神は私たちが持つ限界のある心を遥かに超える御心を持っておられます(**イザヤ 55:8**)。私たちにまだ明らかになっていない神の御心は、奥義と言います。神にとって秘密や奥義などはありません。主はすでにすべてをご存じだからです。

神の奥義である御心の一つが私たちの心、私たちの理解の領域に移された時、私たちはそれを**啓示**と言います。啓示は以前私たちが知らなかったが、今は知っている神の御心です。神には啓示はありません。繰り返しますが、主はすでにすべてをご存じだからです。私たちは、神が私たちに**知恵と啓示の霊(エペソ 1:17)**を与えて下さるように祈ります。そうすることによって、主の考え方を理解することができるからです。

私たちが異言で祈る時、私たちは神の**奥義**を語り(**1コリント 14:2**)、すなわち私たちが何を祈っているかが分からないということです。異言の解き明かしは私たちが祈ったことについて理解させてくれます。その理解は**啓示**のようなものです。異言と解き明かしが他の種類の啓示へと導くのです(**1コリント 14:6**)。

真のイエシュアの信者は、神の御声を聞く可能性を持っています。イエシュアは、私の羊は私の声を聞くと(**ヨハネ 10:3, 4, 5, 16, 27**)述べられました。この能力は預言者や使徒だけでなく、すべての信者のためにあります。羊が主の御声を聞くのです。世界中の人々はこの特別な情報にアクセスすることができませんが、神の霊を通して(**1コリント 2:6-10**)内から私たちに語って下さるのです。

**預言**は、神からの御言葉を私たちの内なる人が聞くことです。異言の解き明かしが、何が語られたかを人が理解することができるのです。異言と解き明かしは預言と同等なものなのです(**1コリント 14:5**)。

**幻**は、神の御心からの映像を私たちの内なる人が見ることです。皆がそれぞれの心に映像を見る能力があります。心にある映像のほとんどは神からのものではありません。内なる映像が神から来るものであるならば、それは**幻**と呼ぶのです(最も単純なレベルでの)。まとめますと:

- **奥義**: 神の御心がまだ明らかになっていない
- **啓示**: 神の御心が以前は明らかになっていないものを理解する
- **知恵**: 神の考え方
- **預言**: 神からの御言葉を内なる人が聞くこと
- **幻**: 神からの映像を内なる人が見ること

すべての預言は御言葉によらなければならず、私たちの意志によってはならないのです(Ⅱ ペテロ 1:20)。私たちは、何が神からのものか、何が自分の自己中心的な欲望なのか見分けなければなりません(マタイ 26:39、I コリント 14:14、ヘブル 4:12)。

---

## シャヴオットの祈り

### ベディ・イントレーター

私たちの徹夜の祈りの集会はすばらしい突破口でした。全体のテーマは終わりの時の霊的なリバイバルでした(使徒 2:17)。夜を徹する祈りの見張り台は次の事に焦点を当てました。すなわち、キリストの御体の一致(ヨハネ 17:21)、御国の到来(マタイ 6:10)、諸国への伝道(使徒 1:8)、聖霊の力(使徒 4:30)、イスラエルの救い(ローマ 11:26)、イエシュアの再臨(マタイ 23:39)です。集会はすべてヘブライ語で行われましたが、諸国への伝道を祈っている時、祈りはそれぞれの国語を話す人々によって十数の言語で祈られました(使徒 2:9-10)。

100 人を越える祈りの戦士たちが加わりました。大半が挑戦すると立ち上がった若者たちでした。何名かは数時間参加し、ある者はずっと夜を徹して参加しました。メシニックジューの牧師のエイタン・シシコフ師、ハナン・ルカス師、アリ・ソーコラム師、シュムエル・ビルンバウム師、シムカ・ダヴィドヴ師、オフエル・アマタイ師、ヤキム・フィギュラス師、そしてガイ・コーヘン師が神の御言葉から短いメッセージを語りました。スカット・ハレル、キング・オブ・キングズ、ドウギット、オハレイ・ラハミーム、そしてナザレス・プレイヤーハウスからのチームが、リバイブ・イスラエルのスタッフと共に参加しました。

その雰囲気は刺激的なものでした。ある者は肉体的に消耗する寸前まで行ったと感じましたが、聖霊の油注ぎが私たちを興奮と期待によって鼓舞されました。私たちは主の聖餐と角笛の吹き鳴らしで終わりました。全員が歴史的な転換点とヨエルの終わりの時の預言の始まりであることを経験しました。